

芭蕉ゆかりの聖地  
出羽三山での  
俳句大会

第63回「奥の細道」

# 羽黒山全国俳句大会



●選者

伊藤 伊那男氏(とういなお)

昭和二十四年七月七日、長野県駒形根市に生まれる。伊那北高等学校、慶應義塾大学法学部政治学科を卒業。仕事は野村證券、オリックス、金融会社経営を経た後、令和二年五月まで神田神保町にて酒亭「銀漢亭」を経営する。

俳句は昭和五十七年、皆川盤水の「春耕」に入会。平成二十三年「銀漢」を創刊主宰。句集に『銀漢』(俳人協会新人賞受賞)、『知命なほ』、『然々と』(俳人協会賞受賞)、評論に『漂泊の俳人 井上井月』、『エッセイに』銀漢亭こぼれ噺―そして京都―がある。

日本文藝家協会会員、俳人協会評議員。

●選者

対馬 康子氏(さかこ)

昭和二十八年、香川県高松市生まれ。高松高校、日本女子大学、国文学科を卒業。のちに夫となる西村我厄吾氏に勧められて俳句を始める。

昭和四十八年、中島誠雄の『麦』に公発。平成三年、有馬朗人の『天』が『創刊』に参加。三十七年文部科学大臣賞表彰、荒川区特別功労者表彰を受ける。平成三十二年桂信子賞受賞。句集に『愛国』、『純情』、『対馬康子集』、『天』、『覚悟』など。共編著『新撰21』、『超新撰21』、『現代俳句の鑑賞事典』。

『麦』会長、『天』最高顧問、現代俳句協会副会長、東京都俳句連盟副会長、国際俳句協会理事。

# 第六十三回『奥の細道』羽黒山全国俳句大会

概要◆俳聖「松尾芭蕉」が出羽三山を訪れ、多くの名句を残した元禄二年。その「奥の細道」の聖地は、多くの俳人たちに愛され現在に受け継がれています。時を経て昭和三十一年に高浜虚子翁の来山を機に、昭和三十四年から羽黒山全国俳句大会を継承してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く現状を踏まえ、参加者及び関係者の皆様の健康と安全が最優先と考え、昨年同様、羽黒山全国俳句大会前夜祭並びに本大会を中止させていただき、一般の部兼題・子どもの部のみの投句とし、いづれは本大会に選者としてお迎えしたい伊藤伊那男先生・対馬康子先生の選により本年も左記要項にて開催いたします。奮ってご投句下さいますようお願い申し上げます。

尚、一般の部・子どもの部に入選された皆様方へは、後日表彰状及び記念品の発送をもってお知らせいたします。

## 〈一般の部 兼題 投句要項〉

兼題の部◆自由題、未発表句二句一組(何組でも可)

選者◆伊藤伊那男先生(銀漢主宰)

対馬康子先生(麦会長、天為最高顧問)

投句料◆一、〇〇〇円(二句一組に付き)

締切◆令和三年八月三十一日(火)まで必着。

投句先◆「奥の細道」羽黒山全国俳句大会実行委員会事務局

投句◆この用紙に必要事項を記入の上、投句料を同封し郵送のこと

★投句者全員に、句集「南谷」をお送りいたします。

※一般の部・子どもの部共に、類句・二重投句(他の俳句大会、結社誌、雑誌などに発表した句)については、審査のうえ、入選を取消することがあります。

## 『前夜祭』『本大会』『子ども』選評・表彰式は、本年中止となります。

〈大会事務局お問い合わせ投句先〉

第六十三回『奥の細道』羽黒山全国俳句大会実行委員会事務局  
〒九九七〇二九二 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向七番地 電話〇二三五六一二三五五 FAX〇二三五六一二三五二

- 主 催 第六十三回『奥の細道』羽黒山全国俳句大会実行委員会(出羽三山神社・鶴岡市)
- 後 援 山形県・鶴岡市教育委員会・羽黒吟社・羽黒町観光協会
- 協 賛 角川文化振興財団・山形県観光物産協会・庄内たがわ農業協同組合・奥の細道観光資源保存会(柳庄交コーポレーション)

## 一般の部

(八月三十一日必着を締切といたします)

※読みやすい文字ではっきりとお書き下さい。〈コピー可〉

句番号	句番号	住 所	氏 名
		(電話番号)	(ふりがな)

◎二句一組 一、〇〇〇円(何組でも可)

## 子供の部

(八月三十一日必着を締切といたします)

学校 年

〒	住 所	氏 名
(電話番号)	(ふりがな)	( )

※読みやすい文字ではっきりとお書き下さい。